

汗をかくことで代謝を促進させる 「波動温浴」



あたかも岩手県の山中に降ってきたかのような「光閃石」。岩石の成分は山中の地盤と全く無縁だという。

近くに温泉もあるのに、なぜ「波動温浴」

季節は3月上旬。今年は雪が少ないと聞いていたので、東京から山形まで、東北自動車道を一路、車でひた走った。春先ののどかな東北道は、いまにも桜が咲きだしそうなほどの上天気。ハイブリッド車は、ガソリンをまき散らす後ろめたさから救われるので、長距離ドライブも一向に苦にならない。

ところが、山形市に着く頃、空は一転にわかにかき曇り、「花に嵐」のたとえ通り、ちらほら雪さえ降り始めた。

そこでニューヨークの知人に紹介された株式会社大社の布川俊弘社長に出迎えてもらい、山形市内で車を乗り換えて雪道をさらに北上、最上町へ。

布川社長がフランチャイズを展開する波動温浴の施設「最上ゆたか」は、靴屋さんとコンビニ店にはさまれた新しいたたずまいのお店だった。

早速、冷えた身体を温めようと入ってみたら、ウイークデーで、しかも近くには温泉もあるというのに、多くの人にぎわっていた。

男女が一緒に過ごせる 家族温浴が新鮮

「波動温浴」は、まず上下に分かれ

ニューヨークに住む知人から、山形県最上郡最上町に「波動温浴」なるものがあると知らせてきた。何でもニューヨークでは日帰りの「デイ・スパ」が盛んで、これを何とかニューヨークに持ち込みたいのだから、そこで効果のほどを試してきてほしいということなのだ。日本にいながら日本の最新情報が遠いニューヨークからもたらされるなんて、何ともおかしな話し。しかしまあ、ともあれ行ってみたい。

た浴衣に着替えてから入る。お風呂やサウナと違って素っ裸で入るわけではないので、夫婦や家族、恋人同士で入っても一向に差し支えない。このシステムが何とも新鮮に映る。

室温は約43度、湿度90%以上。「光閃石(こうせんせき)」と呼ばれる厚さ3センチほどの岩盤の上にマットを敷いて、その上にうつぶせになって寝る。お腹から温めるのが上手に汗をかくコツだそうで、石の枕にタオルを被せ、枕元にミネラルウォータを置いて静かに横たわっていると、もの数分でたちまち心地よい汗が吹き出してくる。岩盤の下には温水の入ったパイプが張り巡らされているとかで、湿度が高い割に、室内の視界はクリアだ。時おりスタッフが乾燥のし過ぎを防ぐために散水するが、不快な匂いもなく、息苦しさや蒸し暑さも感じられない。

10分から15分ほどして、さらに仰向けの姿勢になる。そのまま10分ほど汗をかいてから休憩室へ行き、熱を冷ましてまた波動温浴に戻る。これを2~3回繰り返すとちょうど1時間ほど。料金は時間に制限がなく、敷きマットや浴衣、タオル、ミネラルウォータなど全てを含んでわずか1,000円と安い!これは地方だからこそ可能な料金体系なのだろう。

出掛けにシャワーを浴びようとした

ら、布川社長から「今日は、試しに汗を拭き取るだけにしてみてください」と言われた。半信半疑ながら、言う通りにすると、全身がすべすべの肌になった。「汗に勝る化粧品はありません」と、布川社長は胸を張った。

「ありきたりの岩盤浴と一緒にしないでほしい……」

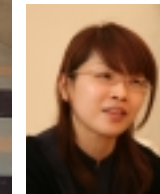
靴屋さんもコンビニ店も「最上ゆたか」も、経営するのは同じ奥山佳宜さんだった。「土地はあるし、人手もコストもそれほどかからないので、儲からなくても地元の人たちの健康づくりに役立つなら結構」ということで布川社長のフランチャイズに応じたのだとか。

「岩盤浴は不衛生……」そんなショッキングな見出しの週刊誌記事が登場して以来、都会の岩盤浴ブームはすっかり冷水を浴びせられた形になったが、ここでは無縁のようだ。というのも、徹底的に衛生管理を施した「波動温浴」は、カビの発生や細菌の温床になりそうなどころがなく、一緒にされるのは迷惑とでもいうように「岩盤浴」という表現はなるべく避けている。「実際、よその岩盤浴とはかなり構造が違うし、温度管理なども厳しい。しかし、効果てき面で安くて清潔、お客さんにも喜ばれているので、やって良かった」と奥山さん。マネージャーを務めるお嬢



問い合わせ / 株式会社大社
電話 : 0238-23-8450
E-mail : taisya@gan-bang.co.jp
URL : http://www.gan-bang.co.jp

(左) 清潔を第一に心がけたという浴室はシンプルでクリア。浴衣を身につけてたっぷりと汗をかく。



(上) いつの間にか地域の社交場のようになっている」とお嬢さんのふさえさん。
(下) 健康は自分でつくるもの」と奥山さん(左)と布川社長。



んのふさえさんによると「初めてのお客さんでも、体験するとたちまちファンになる」そうだ。

お医者さんも奨める 「波動温浴」

ところで、「波動温浴」の「波動」とは何を指すのだろうか。

「光閃石は岩手県の遠野地方だけで採取される特殊な岩石で、打ち合わせると金属に近い音がします。微弱な磁気エネルギーを持っていて、摂氏50度程度に熱すると波動が倍増します。この波動が気持ちのよい汗を引き出すと考えているのですが、まだ検証の最中です」と布川社長。

確かに「波動温浴」の汗はただものではない。じわりと吹き出してきながら、大量に発汗する。しかも、息苦しさや暑苦しさを感ずることなく、爽やかに汗をかくことができる。足の指の裏まで汗が吹き出してくるのだから、驚くほかない。汗をかきにくくなったお年寄りや、運動で汗をかくのが苦手な肥満症の人などには最適な発汗装置となりそうだ。

新陳代謝(メタボリズム)はまず、老廃物を排泄しないことにはどうにもならない。取り込んでばかりいて排泄しなければ、当然のことながら、細胞の入れ替わりはにぶくなり、免疫も低下

してくる。まず排泄して、それから新鮮な栄養を取り入れるのが順序だろう。発汗に目立った効果さえあれば、それで充分と思うのは素人考えだろうか。

ところが長年、腰痛に苦しんできたのに、この「波動温浴」によってすっかり腰痛も肩凝りも冬の風邪引きも解消してしまったお医者さんがいる。山形県の公立置賜(おきたま)総合病院で血液内科を担当する吉野真人医師である。そのレポートによれば「波動温浴は身体を温める持続力が極めて高く、冷えを解消するだけでなく、眠りも深くするので、免疫力そのものを高めている可能性がある。車椅子でも利用できるのも、障害者や関節痛などを抱えている人、温泉に入れない人でも気軽に汗をかくことができる」と評価は高い。

失敗を重ねてようやく獲得した 自信と希望

身体が弱く、健康づくりを研究することが趣味だった布川社長は、何度も失敗を重ねながら、長い年月を掛けてようやく「光閃石」と出会い、しかも浴室室内を完璧に清潔に保つ方法を開発したという。

「最初は玉砂利のような石を使ったり、火山性の岩を使ってみたりして、どれほど失敗を重ねたことか、本当にお

恥ずかしい限りです。しかし、モ The Longest Journey Start with One Small Step モ というのは本当ですね。衛生管理に目処が立ってから、自信がついてきました。まだ成功したとはとても言える状態ではありませんが、地道に努力を重ねてきた結果、お陰さまで国際特許もいくつか取得できましたので、これから東京やニューヨークに出て行くつもりです」と夢を膨らませる。

「何が素晴らしいといって、人の健康づくりに役立つことをして喜ばれることほど気持ちのよい仕事はありませんね。私は天職に出会えて、本当に良かったと思っています」と布川社長。

「岩盤浴ブーム」にもみくちやにされながら、信念を変えずに山形でじっくりと構想をあたため、愛用者の定着と賞賛によってようやく自信と将来への希望を得た「波動温浴」。どれほど効果があるか、専門家にデータの収集と検証を依頼しているそうで、いずれエビデンスが明らかにされる日も近そうだ。(文/水木健太郎) ①